

## ■第5回地域福祉推進委員会 議事録

日 時：令和4年2月14日（月）14時～16時

場 所：オンライン会議

次 第：1 議題

- (1) パブリックコメント実施結果について
- (2) 第4期富田林市地域福祉計画（案）について
- (3) 第4期地域福祉計画の進捗確認について
- (4) その他

### 会議の経過

- 開会あいさつ
- 配布資料の確認
- 新委員が就任につき挨拶
- オンライン会議について説明
- 17名中14名出席につき会は成立、傍聴無し

#### 【A委員長】

- ・ コロナがなかなかまたえらいことになっており、地域福祉にとっては直撃する影響があるが、それでもいろいろな工夫を凝らしながら新しい動きも生まれているのが昨今かとも思う。今回も残念ながら同じ場所で会議はできないが、ある意味これも新しいやり方になってきたと思うので、両方できるようになっていくことが一番いいのかと思う。
- ・ 今日これまで議論を重ねてきた地域福祉計画のいよいよ最終の確認ということになるので、忌憚のない意見をいただきたい。ではひとつめの議案、パブリックコメントの実施状況について説明を。

○事務局よりパブリックコメント実施結果について資料説明

#### 【A委員長】

- ・ パブリックコメントにはかなり多くの意見がよせられているようだ。では説明のあった内容について何か意見はあるだろうか。

#### 【B委員】

- ・ 図としてCSWや相談場所の名称が入るのは分かりやすくてよいと感じた。

#### 【C委員】

- ・ レインボーバスや移動困難者の利便性の向上について多く出てきているが、やはり大型スーパーやそういったところが協力してくれる体制ができれば、そこで買い物をすることにもなるので、三方よしの形ができあがるような広い考え方をしてもらえればと思う。
- ・ また、レインボーバスは老人が乗るものだという意識が大きくあるが、老人にかかるお金

であるレインボーバスという考えを一旦捨て、たとえば中学生のクラブ活動が今できにくくなっており、野球がやりたくてもメンバー9人が集まらなかったりするので2チーム合同で河川敷で練習するといったケースもあり、そういった際に高齢者と一緒にバスに乗り放課後に練習に出向き、また帰りの周回便で家に帰るといったことが可能になれば、いろいろな公共施設に子どもたちがあふれることにもなり、そういった子どもたちへの教育として高齢者へのお手伝いをしようといった感覚を身につけさせていくといった教育と一緒にやっていけば、お金が高齢者のためだけに使われているといった感覚もなくなっていくのではないかと。

- ・こうしたサイクルが総合的に考えられる場所としてこの地域福祉計画にはなってほしいと思う。

【A委員長】

- ・かなり具体的な意見をいただいた。
- ・おそらくこうしたものが地域での交流会議などでも出てきて、それをやりたいというケースなどもあると思うので、公的な負担だけでなく社会貢献のようなことを民間にもしていただきながら、それが全世代型のプラスになっていければと思うので素晴らしい意見だと思う。

【D委員】

- ・広報活動はNPOで活動していてぶつかる課題だが、広報活動はここに書かれている以外に何かあるのかが素朴な疑問だ。
- ・パブリックコメントの全17通がFAXというのも、興味を持っている世代がSNSやインターネットにあまり通じていない世代だからだとも思うので、この地域福祉計画が幅広い年齢層に広がればいいと感じた。

【A委員長】

- ・まさにこれからの課題ともいえる。

【E委員】

- ・話を聞いていてレインボーバスはうちの周囲ではあまり走っていない印象がある。広範囲に広がればいいと思う。

【F委員】

- ・校区交流会議の周知がまだ足りないという意見があったが、回答には周知方法を検討するとあるが、具体的にはどういう方法を考えていくのか気になった。

【A委員長】

- ・具体的な部分は今後どんどん詰めていくので、またご指摘いただければと思う。

【G委員】

- ・先ほどからレインボーバスの話が出ているが、日ごろから高齢者と接することが多いが、特に高齢になり運転免許証を返納したいがレインボーバスの路線がどんどん減少しており返納できないという声もあり、増設・増便を切に願っている。

【A委員長】

- ・免許返納にも関わってくる問題だ。

【H委員】

- ・地域福祉計画や活動計画は市民にとってどんなメリットがあるのか具体的な内容が分からないという意見がパブリックコメントにもあるように、計画書そのものは専門的用語や抽象的表現に終始している部分多い。具体的にレインボーバスの路線を増やしてほしいとか、けあばるの民間譲渡の方向性であるとか、実際に市がこの地域福祉計画に則って進めていく具体的な施策の対話先として市民をもっと近くに寄せて計画を進めていけば、より市民にとってもっと分かりやすくなっていくと思う。
- ・実際に進めていく施策そのものを市民との対話のなかできちっと答えを出して行っていただきたい。

【A委員長】

- ・今のコロナ禍でなかなかそういった実際の直接の対話が難しくなっている時代だが、しかし一番重要な出発点だと思う。

【I委員】

- ・改めて、外国人市民の意見がどれくらい反映できたのかという点は気になった。社会福祉協議会の活動計画には国際交流協会が入っているが、今後実際に計画を進めていくうえで、国際交流協会などからも外国人市民の困りごとなど聞きながら進めていただきたい。

【J委員】

- ・現在傍聴している道路交通課の交通会議ではいろいろな問題について検討しているようだ。パブリックコメントにもあるように、道路交通課と連携ができていないと感じる。全体としてどういう組み立て方をしていくかきっちり決めていかなければ難しいのではないかな。
- ・けあばるの民間譲渡や公民館の無料利用についての意見があるが、回答は今後の参考にするというだけで具体的に将来どのようにしていくのか知りたいところだ。

【K委員】

- ・パブリックコメントについてはさまざまな、特に具体的な個別課題について意見が出ているが、市の回答としては個別の事業案件については参考にするといった文言になっているが、こういう意見が出てきているというのは、やはり市民と行政、行政に要望するといった発想から出てきているのだと思う。しかし、今この地域福祉でやろうとしているのはそれを変えよう、参加型の地域福祉にしようとしているはずなので、個人的にはパブリックコメントの回答としては、「お答えいたしかねます」というのではなく、こうした市民が意識を持っているというのは宝だと思うので、「ぜひこれからやろうとしている交流会議で出してください、ぜひ参加してください」といったコメントがほしかったところだ。
- ・これから参加型に変えていこうとしているのだから、パブリックコメントに意見をくれるような人たちが主体的に地域福祉に関わってもらえるのが校区交流会議のしくみだと思うので、そういった方向に持って行ってほしかったところだ。

【A委員長】

- ・素晴らしい意見だ。そういった市民の声を受けてどうするのかという部分でもあるので、今後の事務局にもしっかり受け止めてもらいたい。

【L委員】

- ・レインボーバスの意見があるが、もう少し小回りの利くものをというのであれば、レインボータクシーでもいいのではないかなと思う。

- ・聴覚障がいの補助の意見もあったが、視覚、目の不自由な人にも補助があってもいいのではないか。

#### 【M委員】

- ・公民館の無料利用だが、地域活動の場所として公民館が無料で開放されているが、その利用方法が広まっておらず、どうやって使えばいいのか分からない人が多いと思う。
- ・また、金剛公民館をよく使っているが、場所が不便でレインボーバスにも関わるが、行きたくてもいけない。レインボーバスが3館をつなげるような動き方にできれば公民館の空き状況も減るのではないか。

#### 【C委員】

- ・ひとりの意見も大きい団体の意見も同じように反映されることが大切である前提だが、学校で校区交流会議をやるようになったことで、もうひとつ中学校区のすこネットや小学校区の独自のすこネットとやってる内容が被ってきたと感じる。
- ・高齢者は多くの経験を持ち、子どもたちはまさしく未来だと思う。未来のために人びとが動くというのは、とても自然に大きく動きやすい。広報活動への意見も出たが、今高齢者の多くは校区の学校を卒業したり何等かの関りを持っている人が多い。そう考えると、集約されるのは小学校区での関わりを持つ人が富田林市の大半を占めると考えられる。そこで重要になってくるのが、教育の質を向上させ、増進型地域福祉について教育でも学んでいくことが必要になる。学ぶためには学校だけでなく保護者にも伝えなければならないし、保護者は今働き世代のど真ん中なのでこのボリュームゾーンにどう伝えるかとなると、よくある平和ポスターや人権ポスターを描いてもらい表彰式をすれば子どもたちの親など家族がやってきて盛り上がりを見せるので、その場でメッセージを伝えるというのは一番効果が大きいのではないかと思う。
- ・ひとつの案としては、今SDGsのポスターを描いてもらうことを企画し、その際に保護者や子どもたちには一緒に住みよいまちをつくろうというメッセージを伝えていくのはどうか。

#### 【A委員長】

- ・具体的なアイデアがどんどん出てきそう。今後の地域福祉計画をどのように進めていくか、進捗管理や運営管理の組み方になるが、おそらく地域レベルの要望ややりたいことは校区交流会議で出し合い、もう少し市域レベルの今のアイデアのようなものなどはぜひその進捗管理の場での出し合い、いわば校区交流会議の拡大版のように使えるようにすれば、市全体に関わる話を出しあっていけるようになっていけばいいと思う。
- ・今の意見なども温めておき、聞きっぱなしで終わらずぜひそうした際に具体的な形で提案していただければと思う。
- ・事務局からも何かあればどうぞ。

#### 【事務局】

- ・何点か補足したい。校区交流会議の周知については、来年度から広報に連続掲載のような特集で掲載していきたいと思っている。全戸配布での校区交流会議の通信については今年度で最後とし、いよいよ各校区での活動を広報のなかで紹介していけるような記事を想定している。

- ・レインボーバスやケアセンターについては市民にとって大きな存在であるという認識をしている。ただ、個別案件という表現が冷たいのかもしれないが、このあたりの表現はもう一度事務局で確認したい。
- ・外国人の意見については、今回、活動計画との合同委員会もあったのでそのなかでも思っていたが、外国人市民会議を市がやっているの、そういった場でも意見の吸い上げや、若者会議もはじまっているので若者からの意見なども取り入れながら、計画ができたからこのままというのではなく、カスタマイズしながら発展させていければと思うのでよろしくお願ひしたい。

【A委員長】

- ・ぜひ今日の意見もふくめ、みんなで確認していきたいと思うので今後もいろいろ気にしていただければと思う。
- ・では議案2に移りたい。

○事務局より第4期富田林市地域福祉計画（案）について資料説明

【A委員長】

- ・全体のボリューム160ページほどで、これまで前半の議論をしてきたので、今日は後半の資料部分などを中心に意見をいただきたい。
- ・一点うかがいたい、奥付だが、「2022年令和4年3月」とあるが、3月でいいのか、4期がはじまる4月でなくていいのか。従来はどうだったか確認を。

【事務局】

- ・策定が3月、4月から第4期になるので3月で問題ない。

【A委員長】

- ・了解した。では他に気になる点などあればどうぞ。
- ・かなりのボリュームだが、当初の議論でもアンケートの掲載箇所などをどこに位置づけるのかを話した。当初だと前回こういうことをしてここまできたので次の計画を立てますという流れだと、今回参考資料に掲載したアンケート調査等をもっと冒頭に載せる必要が出てしまい、疲れてしまい重要な部分まで読んでもらえないのではないかとということで、このように資料編に回した構成になっている。

【L委員】

- ・151ページ委員名簿について、委員が変わっているのではないか。

【事務局】

- ・修整したい。

【L委員】

- ・たとえば70ページ、8番目に表とあり表番号がないが、番号をつけてはどうか。

【A委員長】

- ・全体を通してどちらが見やすいか事務局で検討をお願いしたい。
- ・参考資料58ページ以降だが、見出しのところは何があったのかが分かるようなタイトルの方がいいのではないか。総人口推移なども、要は年々減少しているということが言いたい

ので、すべてにタイトルを付けるわけにもいかないので一番言いたい部分に下線を引くなど、メリハリをつける感じで表現できないか。検討をお願いしたい。

【D委員】

- ・少しうかがいたいが、62ページの精神障がい者保健福祉手帳の級というのは重さを指すのか。

【事務局】

- ・そうだ。1級の方が重度で、程度で等級が変わっている。

【D委員】

- ・1.7倍に増加しているというのはどういうことなのか分かるのであればうかがいたい。

【事務局】

- ・細かくは担当課に確認が必要だが、実際この間精神障がい者の手帳を申請する人の数は増えており、3級は等級のなかでは軽度ではあるが、手帳の取得者数が増えているのは現状だ。

【L委員】

- ・63ページ、グラフで韓国・朝鮮や中国・台湾とひとつになっているが、各々の内訳がどうなっているのかわからないので分けてもいいのではないか。一緒にしてある理由はあるのか。

【事務局】

- ・基本的には第3期のグラフと同じようにしている。

【K委員】

- ・韓国・朝鮮や中国・台湾という分け方には国籍をめぐる歴史的経緯があり、韓国・朝鮮に関しては旧日本の領土だったことから戦後まだ韓国と北朝鮮が分かれていないときには朝鮮籍というものがあり、その後韓国ができて韓国籍が出てきたが、元々の朝鮮籍のままの人などもいたりといった歴史的経緯があるため分けられないという実態で、統計などでも必ず韓国・朝鮮という分類になる。中国・台湾も同様で、台湾は元々日本の植民地だった経緯があつて分けられないため、こういう分け方になっているのではないか。

【A委員長】

- ・一度オフィシャルな形のものを確認していただきたい。他でも同じようなデータは取っているとあるので、一度検討していただきたい。

【事務局】

- ・確認し調整したい。

【A委員長】

- ・では、全体の第4期計画について今までの修整等はこちらの委員長、副委員長、事務局での責任で確認・修整するものとして、委員会として第4期計画案について承認いただけるだろうか。

【K委員】

- ・基本的に賛成だが、3点お願いしたい。15ページ、校区交流会議について「各校区での取組が継続されるよう支援していく必要があります」とあるが、この具体的中身として私は委員会のなかで3つ支援が必要だと提案させていただいた、ひとつは金銭的助成、人的支

援、情報提供支援、これに関して明確に今の段階ではなっていないので、これからの議論のなかでぜひこの支援の内容を実質的なものにしてほしいと思うし、それが公の役割ではないかと思う。

- ・また、「地域と共に創る重層的な相談支援体制」ということで、相談体制の強化のために専門性を高めて人を配置することは重要だしこれまでもやってきたことだと思うが、それを支えるような市民の支えが必要だと思っている。たとえば専門相談員というのは人間でいうところの心臓や肺などの器官だと思う。それを強化することは大切だが、それを結んでいる血管や神経が機能しなければ、この相談体制も機能しないだろう。それは何かというと、地域の市民、専門性はなくても地域をよく知っている市民の力のことだと思う。これまでいろいろな市の会議体を見ていると、委員のほとんどが専門機関の人ばかりなのでもっと市民も入って行ってもらい、血流として相談体制を結んでもらい市民が気軽に行けるような体制づくりをする必要があるのではないかと。
- ・33ページの生活困窮者への支援だが、先日参議院の委員会の公聴会があり、滋賀県職員が意見を述べていたが、そこではどのようにしているかということ、税金を滞納しなかなか払えない人に対して差し押さえや督促をするだけでなく、何か困っていることがあるんじゃないですかと働きかけている。すると、税金滞納の背景にいろいろな問題があり、そういったものを他の福祉も一緒になって解決していくようで、これが非常に機能しているらしい。コロナで困窮者が非常に増えてきたなか、コロナの対策も融資が中心になっており、今後それらを返済していくとなると困窮問題はなかなか解決しないだろう。いろいろな福祉課題の背景には困窮がある場合が多いので、このあたりは総がかりで取り組んでほしい。主な担当課のなかに表の福祉課や生活支援課だけが書いてあるが、たとえば債権管理課など税金を徴収する部署も参加し、税金滞納家庭に対して福祉の担当課と一緒にその家庭の問題を取り除いていくような、ひとりも取り残さないまさにSDGsのような総がかりの生活困窮者支援を行ってはどうか。

#### 【事務局】

- ・校区交流会議への支援についてはこれから進めながらの課題だと認識している。
- ・地域住民を巻き込んだ、地域住民と共に地域の人びとをみんなで支えていくという考え方については、これは活動計画のなかでなんでも相談を校区単位で行っていき、19ページのネットワーク図のなかで校区単位の相談体制などがまさしく地域住民が地域の人との相談役となりそのなかで対応できないものを圏域ごとのなんでも相談につないでいくというものでこれまでイメージしてきているものなので、その点をもう少し理解していただけるようにしたいと思う。
- ・困窮問題については、一昨年前、コロナがはじまり滞納相談の際に、なんでも相談もはじまっていたことから併せて悩みを聞きつなぐためのお困り相談シートというものを開始した。1年間実施するなかで、市の37の各窓口でこのシートを活用し、福祉的課題を持っている人の相談をつないでいく試みをしている。件数としてはまだ月に数件だが、指摘のあったような試みは全庁的に取り組んでおり、債権管理課だけ取り込むというより全課で取り組んでいるという認識をしていただければと思う。

#### 【A委員長】

- ・ 枠組みが出来ていない場合は入れていく必要があるが、実際にはこれを進捗しながらどのような形で内容が詰まるかというふうな形でやっていく段階にきているのだと思うのでご了解いただければと思う。

#### 【C委員】

- ・ 6ページにSDGsが出ているが、今年川西小学校区の幼稚園、小学校、中学校でSDGsパートナー登録を行った。11月3日にはSDGs祭りというものをまったく独立した形で開催した。これは富田林市はSDGsに力を入れていることからバックアップをもらえるであろうというところや、SDGsパートナーというのは今後企業が社会貢献として入ってくる可能性のある部分なので、学校園としても参加しておくことで、学校にいろいろなエネルギーを取り込めるのではないかと狙いがある。
- ・ 実際のところこのSDGsパートナー登録が広がっていった際には、増進型地域福祉にはこの企業の力は絶対に必要だと思うし、この本部は市役所内の政策推進課にあるので連携することで何らかの情報をやりとりできる関係になっていくのではないかとと思う。また、その点について市としてSDGsに取り組んでおりパートナー募集を行い企業からも広く協力を求めているといった旨を計画のどこかに掲載してはどうか。そうでなければ、人口なども微増や微減、すべてがちょっとずつしか動かないことが分かっており、大きな改善のようなものは見られないであろうなかで何らかの飛躍のためには市としての大きな動きや、市にはまだ多くある自然など活用できるような部分と固まりをもって企業を呼び込めるようになるのではないかと。当然そうなると福祉や教育についても出て来ると思うので入れておいて損はないと思うがどうか。

#### 【A委員長】

- ・ これはかなり議論を要する部分なので、もしやるのであればもう少ししっかりとした考えを持った方がいいだろう。
- ・ 現在考えているのは校区交流会議レベルで出てきたものに対してさまざまに民間などもふくめて巻き込んでいこうというものだが、計画の前面に民間や企業の力が入ってくるとなると、かなり大きな構造を書き換えることも影響されるだろう。SDGsの位置づけもそこまで力を入れてはおそらく入っていないので、今はまず校区交流会議を立ち上げ、それをしっかり回していくというのが今回の増進型の基本なので、それをやるためのアクセントとしてのSDGsであるという点をご理解いただきたい。
- ・ 実際には意見のような方向でやりたいが、今前面に出してしまうとおそらくばらばらな感が出てしまうだろう。個人的には計画としてはこの程度に抑えておき、内容としては意見のような方向を目指していくということで、ぜひこれらに関しては進捗の中で具体に出していただければすごく分かりやすくなるだろう。

#### 【L委員】

- ・ 福祉教育について、25ページでは「福祉教育」とあるが、43ページでは「福祉共育」となっているのはいいのか。

#### 【B委員】

- ・ 43ページについては社会福祉協議会の造語で、あえて「共」の字を使っており、※で注釈も付けているものだ。



【A委員長】

- ・そのあたりもふくめ再度確認し必要があれば修整したい。
- ・では改めて計画案について承認いただけるだろうか。

○一同了承

【A委員長】

- ・では最後の案件へ。

○事務局より第4期地域福祉計画の進捗確認について資料説明

【A委員長】

- ・いつ頃行うのかななどにもよると思うが、いずれにせよ年間2回の進捗管理のための会議を行うということ、初年度なので実績を検討というよりどのように評価をするかという意見を少しまとめておいていただくということでもいいだろうか。それを事務局からまた聞いてもらい会議に臨むという進め方でいいだろうか。

【事務局】

- ・本日何かを決めるというより、どういう雰囲気を進めるのかということをごつくばらんに話していただければどのような形で資料をまとめるかのイメージもつきやすいかと考えたものだ。

【A委員長】

- ・確かにいきなり事務局から出されるより、みなさんから意見をいただいた方がいいだろう。
- ・いろいろ意見をいただいた計画を進めていくうえで、その評価もいろいろと言われている時代でもあるので、どのように評価していくか、特にこれまでも客観的な評価ができればと取り組んできたが、それだけでは地域福祉は難しいということで、定性的な評価として、ヒアリングをしたり調査をしたりということにも取り組んできた。そういった点もふくめ、みなさんの方でも検討していただき、今後また意見をうかがう機会があるので、その際にぜひこのような形でやってはどうかと案をいただければと思う。
- ・現段階でいつ頃というのは考えているのか。

【事務局】

- ・まだ時期も確定していない。

【A委員長】

- ・ではその前段階あたりでみなさんに今のような部分を聞いていくということをお願いしたい。
- ・でははいよいよ4月から第4期がはじまる。増進型地域福祉という形で進めてきたが、次期計画でこれが成否を分けるだろうと思っている。ここまではコロナ等でなかなか難しい状況だとある意味いろんな言い訳もできたが、今度はそうした言い訳もできないと考えているので、富田林市としてあるいは地域福祉としてこの増進型を本気でどうするのか問われる期になったと思う。ぜひみなさんと一緒に一人ひとりの幸せと地域の理想を実現できる

ような形を定着させていければと思うのでよろしくお願ひしたい。

- ・では議事内容としては以上となるので事務局に進行をお返ししたい。

**【事務局】**

- ・積極的な議論に加え貴重なご意見をありがとうございました。指摘をいただいた部分については事務局で検討し委員長、副委員長に確認のうえ修整等を行いたい。
- ・今後のスケジュールについては、来年度は第4期計画の進捗確認のための会議を2回開催する予定だ。開催時期は決まり次第お知らせしたい。
- ・本計画案は固まり次第、本委員会での証人報告も併せ確定の起案・決裁を受け策定終了となる。冊子については出来上がり次第みなさんにもお届けしたい。
- ・現在、校区交流会議通信令和3年度分の発行準備を進めており、市の3月号の広報誌に織り込みで全戸配布する予定だ。コロナ禍でなかなか校区交流会議は進まなかったが、そのなかで実践できたプログラムなどについて掲載しているのでみなさんにもご覧いただければと思う。

○閉会あいさつ

(以上)